
スマブラメンバーを1つの町に凝縮中

ほーき雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラメンバーを1つの町に凝縮中

【Nコード】

N2698Z

【作者名】

ほーき雲

【あらすじ】

五武山市、僕の小説の大半はここが舞台である。だったらスマブラメンバーをここに住ませてみたらどうだろうか？いちいち五武山市に来る必要はない。最初からいるのだから。（笑）

そんなテンションで始まったが・・・。

プロローグ（前書き）

予告編の続きです。見てない方は活動報告のアーカイブをご覧ください。
さい。

プロローグ

ある日、ほーき雲は立ち上がった。

ほーき雲「スマブラメンバー全員探すって絶対1人じゃきつい。しかも五武山市っていう広い場所に散らばっちゃってるんだもん。」

実は全員ほーき雲の近所にいるのだが……。

ほーき雲「誰かに救援要請しよう。」

マスターハンド「あれ？ほーき雲からメール？」

クレイジーハンド「ほーき雲からメール？」

D「ほーき雲からメール来たよ。」

『【救援要請】五武山市内に散らばったスマブラメンバーを全員僕の家の近くに集合させてください。僕1人じゃ足りません。よろしくお願いします。』

ちなみに、Dって何だ！？って思った人は大規模な逃走中にて詳細を知ることができます。

マスターハンド達「探すか！」

全員ほーき雲に協力するようになった。

みんなほーき雲の家から離れたところに行った時、スマブラメンバーは……。

リンク「みんなどうする？」

リユカ「家でゲームやる！」

ルイーダ「4人1組になって分かれよう！」

全員「賛成！」

こいつらが家にいる限り、ほーき雲達はスマブラメンバーを1人も見つけられないだろう。

続く

ミサカ捜索隊（前書き）

どうなると思いますか？

ミサカ搜索隊

ほーき雲はスマブラメンバーを探す途中、ある少女に出会った。

ほーき雲「ちよっと打ち止めちゃん。人探しに協力してくれない？スマブラメンバーを探しているんだけどね。この五武山市のどこにいるのかわからないんだ。そこで君を含めた9970人でスマブラメンバー達を探して欲しいんだ。」

打ち止め「それじゃ、全妹達シスターズに指示してみる。ってミサカはミサカは了解してみたり。」

その瞬間、いきなり9969人の人が現れた。しかも全員全く同じ服装、全く同じ体型である。

シスターズ
妹達。

それはある電撃使いのクローン体である。20000+1体が造られたが、そのうち10031体はある『最強の超能力者』によって殺されている。

ちなみに、+1体というのは制御個体で、ほーき雲が出会った少女のことである。

ほーき雲「これだけいれば全員見つかるだろう。」

打ち止め「でも、ミサカは行かないよ。ってミサカはミサカは自分の参加だけは断ってみたり。」

ほーき雲「十分だよ。9969人もいるのはありがたい。さらに僕もいれてマスター達もいれて9973人。これで見つからなかったらヤバイよね。」

そして夕方。

ほーき雲「かなり疲れた……。見つかった？」

検体番号12345「すみません！見つけたのですが逃げられました。とミサカは失敗報告をします。」

ほーき雲「どこで見つけたの？」

検体番号12345「ちょうどこの家の隣ですよ。とミサカは報告します。」

ほーき雲「……え？」

検体番号12345「ですから、この家の隣でマリオと思われる赤いおっさんを見つけました。とミサカは再度言います。」

ほーき雲「……まさかみんなもうここに住んでるの？」

検体番号12345「その可能性が一番高いです。とミサカは脳内の計算により当然の答えを出します。」

ほーき雲は隣の家をノックしてみた。

マリオ「あつ、ほーき雲だ。ゲームしたいの？」

ほーき雲「・・・君達ここに住んでたのね。他の人達は？」

マリオ「みんなこの近くの家に住んでるよ。」

ほーき雲の力は抜けてしまった。その後、どうやって夕御飯を食べて、眠りについたのか覚えていなかった。

続く

ミサカ搜索隊（後書き）

いきなりスマブラ以外のキャラクター出しやがって・・・。

市長が死んだ。(前書き)

いきなり何があったんだ!?

市長が死んだ。

翌日

ほーき雲「ああ、よく寝た。」

リンク「こっちはお前の家に連れていくの大変だったんだぞ。いきなり気絶しやがって。」

ほーき雲「すぐ隣だろうが。」

ヨッシー「そうそう、ここら辺に空き家いくつあるの?」

ほーき雲「50を越えてるって聞いた。」

ピット「だから1人1件でいいんだ。」

ほーき雲「とにかくたくさんあるんだよね。」

新聞社の人「号外!号外!大変なことになったぞ!」

ほーき雲「大変なことってなんだ!?!」

ほーき雲は号外新聞を1つもらう。

ほーき雲「なんだってえー!?!?!?!」

市長が死んだ。(後書き)

立候補者は危ないやつらしい。

新市長大作戦（前書き）

誰なんだよ！？だいたいわかるかな？

新市長大作戦

ほーき雲「ほら、あれを見る。」

ほーき雲が見ているものは……。

タブー「これから私タブーが新市長となるのです！皆さんぜひ私に投票をお願い致します！」

ほーき雲「わかっただろ。大声でタブーが演説してるんだ。しかもあいつ以外に立候補者はいない。このままじゃタブーが新市長。となれば五武山市は終わるだろうな。」

リュカ「こんなのどうすりゃいいんだよ……。せつかく来たばかりなのに……。」

ほーき雲「方法なら1つある。他の誰かが立候補して選挙に勝つんだ！」

マスターハンド「しかし、それが難しいのは自分でもわかってるんだろ。今のタブーの支持率は最大。そこをどうやって勝つのか思い

付かないんだろ。普通そうだろ。誰が立候補するのかすら決めてないのにな。」

マスターの発言は最もである。しかし、それを否定するかのよう
に発言をした者がいた。

D「もし、僕を含めた昔の仲間たちの中で、『リーダーシップ界の王』と呼ばれる男が立候補したらどうなると思う？」

ほーき雲「そういうやつがいたら苦労しないよ。」

D「そういうやつは実際にいる。しかも遊び、仕事に関わらず最高のリーダーシップを見せる男。そいつが何回仕切っても誰も文句を言わない。しかもそいつの夢は政治家だ。市長になるのも第一歩になるはずだぜ。そいつの夢のため、タブーからこの五武山市を守るため、そいつを立候補させてみないか？」

全員「おおーーーーー!!!」

ほーき雲「おい、1つ言っておくぞ。勝てるかわからないのはわかっているが、もし勝ったとしたら、タブーは攻撃するかもしれぬ。その時のために、選挙当日は戦闘態勢に入っとけよ。」

新市長大作戦（後書き）

果たしてどんなやつなのか？タブーが市長になることを止められるのか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2698z/>

スマブラメンバーを1つの町に凝縮中

2011年12月10日17時50分発行